

令和7年産 紀南の梅産地情報

2025/07/23

「生産概況」

1. 本年産の南高梅の開花期間は14日間と平年より7日短くなり、昨年12月から本年2月にかけて気温が低かったことが影響し、満開期は3月2日と平年より16日遅い極端な遅咲きとなった。授粉樹との開花はほぼ揃ったが、開花期間中の気象変動が大きくミツバチの活動が制限されたことから、収穫前の定点調査では着果量は前年より多く・平年より少なくなった。

また、4月6日・11日・14日には、強い寒気が流れ込み、昨年に引き続き紀南の広い範囲で雹が降り、等級を著しく低下させる甚大な被害が発生した。

小梅は5月16日、古城は5月22日、主力の南高は5月30日から販売が始まった。生育期間中は平年並み～やや多い降水量があり果実肥大は概ね順調に推移した。病虫害については6月中旬以降はすす斑病が発生、下旬以降は果梗障害が発生し、等級を低下させる原因となった。

2. 生産量は、各品種総じて前年より多く・平年より少ない見込みとなっている。

7/18日時点（生産見込量：トン）

品 種	7 年 産	6 年 産	平 年	前 年 比	平 年 比
小 梅	633	201	687	315%	92%
古 城	263	129	436	204%	60%
南 高	13,143	10,270	20,499	128%	64%
在 来 系	327	138	402	237%	81%

「安全・安心対策」

J Aわかやま紀南地域本部の安全・安心対策は、全出荷者の生産履歴報告書の安全確認、生産者毎の出荷物サンプル保管、農薬残留分析、GAP（農業生産工程管理）の自主点検を実施した。

「産地の課題と方向」

2年連続の不作傾向に加えて雹被害となり、予想を上回る激しい気象変動の中で、梅生産においては生産量を安定させることが産地としての最重要課題となる。

生産安定対策として、短期的には授粉対策、ミツバチの活動を促す防風対策、灌水・施肥・土づくりの基本管理の徹底、中長期的には改植、授粉樹の増植、土づくりの定着、南高の優良系統の発掘等を行い、安定生産に向け対策を講じていく。